

新変額個人年金保険

投資型年金 グッドステージ

2014年度（平成26年度）特別勘定の現況

●投資環境（2014年度）

日本株式市場

日経平均株価は、期初14,870円で始まりました。4月に5%から8%への消費増税が実施された直後の金融政策決定会合での現状維持決定を受け、4月中旬に同株価は今年度の安値となる13,885円まで下落しました。10月末に日銀が追加金融緩和を決定したことで外国為替市場において円安が進行し、輸出関連の大型株を中心に同株価は上昇し、12月には2007年7月以来の18,000円台まで到達しました。1月にはECBが量的緩和を3月に実施することを決定したことを好感し、米欧株価が上昇したこと等を受け、3月に日経平均株価は、2000年5月以来の今年度高値19,778円まで上昇しましたが、その後やや戻し期末は19,206円で終了しました。

外国株式市場

米国のS&P500は、期初1,873.96で始まりました。4月上旬の米企業減益決算等により、同指数は1,814.36まで一時下落しました。10月中旬にかけて世界経済の減速懸念、米国金融政策の量的緩和終了やエボラ出血熱の感染者拡大等によりリスク回避的な流れを受けて、同指数は一時1,820程度まで下落しました。12月に原油価格の急落、ロシアルーブルの急落、1月にスイスフランの急騰等を受けリスク回避的に同指数が2,000前後まで下落する局面がありましたが、その後堅調に推移し同指数は2月に史上最高値となる2,119.59をつけました。期末は若干値を戻しS&P500は2,067.89で終了しました。また、英国のFTSE100は、期初6,598.37で始まりました。10月中旬にかけて世界経済の減速懸念等によりリスク回避的な流れを受けて、同指数は一時6,072.68まで下落しました。その後は、徐々に上値を切り上げつつ堅調に推移し、同指数は3月には史上最高値となる7,065.08にまで上昇しました。その後、やや反落しFTSE100は6,773.04で終了しました。

日本債券市場

10年国債利回りは、期初0.64%で始まり、日銀の金融緩和策の買入継続等による国債の良好な需給環境を背景に、0.5%前後まで徐々に低下しました。9月には米国の早期利上げ観測や日本の株価上昇等に伴い、同利回りは0.58%程度まで上昇しました。10月末に日銀が追加金融緩和を決定すると、同利回りは0.44%程度まで低下しました。その後発表された2014年7-9月期GDPマイナス成長、消費増税の実施時期を2017年4月に確定すると安倍政権より意思表示があったことや日銀の追加緩和の効果等を受け、同利回りは1月に0.20%程度まで低下しました。1月下旬の金融政策決定会合で追加緩和策が見送られると同利回りは上昇に転じ、その後は0.30～0.50%程度の幅で推移しました。10年物国債利回りは0.40%で期末を迎えました。

外国債券市場

米国10年債利回りは、期初2.81%で始まりました。10月中旬にかけて、世界景気の減速懸念、エボラ熱感染者拡大、米国の量的緩和終了等を受けたリスク回避的な動きから、同利回りは一時2.2%程度まで低下しました。また、年度後半に原油価格の下落が顕著となる中、インフレ率の低下、新興国経済の需要鈍化の観測等を背景に、同利回りは1月に1.64%まで低下しました。2～3月にかけては、米国労働市場の回復等を背景とする2015年内の利上げ観測等から2.2%程度まで同利回りが上昇する局面がありましたが、米国10年国債利回りは1.92%で期末を迎えました。また、ドイツ10年国債利回りは、期初1.56%で始まりました。その後、ECBによる追加緩和期待やデフレ懸念等を背景にほぼ年度を通じて同利回りの低下局面が継続しました。3月にはECBによる量的緩和導入が決定され、0.16%程度まで一段と低下しましたが、ドイツ10年国債利回りは、0.18%で期末を迎えました。

外国為替市場

ドル円相場は、期初1米ドル＝103.07円で始まりました。4月～8月までは1米ドル＝100～105円程度の狭い幅での動きが継続しましたが、9月にはGPIF改革による海外投資拡大等への期待から1米ドル＝110円程度まで円安・ドル高が進行しました。10月下旬～月末にかけFOMCにおける米国の量的緩和終了決定、日銀による追加緩和の決定等により、円安・ドル高が一段と進行し、12月には1米ドル＝122円近辺にまで到達しました。その後、3月まで1米ドル＝115～122円程度の幅で一進一退の動きが継続し、1米ドル＝119.95円で期末を迎えました。また、ユーロ円相場は、期初1ユーロ＝141.96円で始まりました。日銀の追加緩和決定による円安・ユーロ高が進行し、12月には1ユーロ＝149.78円に到達しました。その後、ECBの量的緩和導入決定等によりユーロは下落基調を強め、3月には一時1ユーロ＝126.91円まで円高・ユーロ安水準に到達し、1ユーロ＝128.68円で期末を迎えました。

●運用実績の推移および運用方針

- | | |
|-------------|---|
| ①当期の運用実績の推移 | 各特別勘定の運用状況をご参照ください。 |
| ②当期の運用方針 | 当社は、各特別勘定の運用方針に従い、特別勘定の運用を実施しました。 |
| ③今後の運用方針 | 当社は、今後とも、各特別勘定の運用方針および管理運営方針に従い、特別勘定の運用を行う方針です。 |

当社は2014年度決算（決算日：2015年3月31日）を行いました。当資料は2014年度の運用状況をご報告するものです。

4ページ以降は特別勘定レポート（2015年3月末現在）からの抜粋となります。最新の運用状況は当社ホームページにてご確認ください。



400401

●特別勘定資産の内訳(2014年度末)

(単位：百万円)

区分	金額			
	日本株式 (A)	日本株式 (B)	日本株式 (C)	日本株式 (D)
現預金・コールローン	826	125	32	15
有価証券	66,652	7,931	557	974
公社債	-	-	-	-
株式	-	-	-	-
外国証券	-	-	-	-
公社債	-	-	-	-
株式等	-	-	-	-
その他の証券	66,652	7,931	557	974
貸付金	-	-	-	-
その他	374	137	20	13
貸倒引当金	-	-	-	-
合計	67,854	8,195	610	1,004

※単位未満切捨て

(単位：百万円)

区分	金額			
	世界株式 (A)	世界債券 (A)	世界バランス (A)	マネー (A)
現預金・コールローン	56	119	2	265
有価証券	4,258	6,251	2,368	885
公社債	-	-	-	-
株式	-	-	-	-
外国証券	-	-	-	-
公社債	-	-	-	-
株式等	-	-	-	-
その他の証券	4,258	6,251	2,368	885
貸付金	-	-	-	-
その他	48	14	57	191
貸倒引当金	-	-	-	-
合計	4,363	6,385	2,428	1,342

※単位未満切捨て

●特別勘定の運用収支状況(2014年度)

(単位：百万円)

区分	金額			
	日本株式 (A)	日本株式 (B)	日本株式 (C)	日本株式 (D)
利息配当金等収入	5,709	305	33	103
有価証券売却益	-	-	-	-
有価証券償還益	-	-	-	-
有価証券評価益	43,630	3,039	170	502
為替差益	-	-	-	-
金融派生商品収益	-	-	-	-
その他の収益	-	-	-	-
有価証券売却損	-	1	0	-
有価証券償還損	-	-	-	-
有価証券評価損	33,351	1,328	72	422
為替差損	-	-	-	-
金融派生商品費用	-	-	-	-
その他の費用及び損失	-	-	-	-
収支差額	15,988	2,015	130	182

※単位未満切捨て

(単位：百万円)

区分	金額			
	世界株式 (A)	世界債券 (A)	世界バランス (A)	マネー (A)
利息配当金等収入	699	627	192	0
有価証券売却益	-	-	-	-
有価証券償還益	-	-	-	-
有価証券評価益	3,897	3,898	1,389	0
為替差益	-	-	-	-
金融派生商品収益	-	-	-	-
その他の収益	-	-	-	-
有価証券売却損	-	-	-	-
有価証券償還損	-	-	-	-
有価証券評価損	3,456	3,860	1,179	0
為替差損	-	-	-	-
金融派生商品費用	-	-	-	-
その他の費用及び損失	-	-	-	-
収支差額	1,141	666	402	0

※単位未満切捨て

●有価証券の売買状況(2014年度)

(単位：千口、千円)

特別勘定の名称	銘柄	買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
日本株式 (A)	フィデリティ・日本成長株・ファンドVA2	292,107	503,000	11,499,908	14,304,504
日本株式 (B)	ダイワ・バリュー株・オープンVA (底力VA)	94,846	143,200	1,259,919	1,857,326
日本株式 (C)	ドイツ・ジャパン ファンドVA	157,507	220,740	268,760	340,869
日本株式 (D)	ダイワ・ジャパン・オープンVA (D.J.オープンVA)	162,440	217,500	389,628	420,787
世界株式 (A)	大和住銀/T. ロウ・プライス 外国株式ファンドVA	16,426	38,000	750,536	976,002
世界債券 (A)	ブラックロック・ワールド・ボンド・ファンドVA	-	-	1,388,797	1,595,095
世界バランス (A)	フィデリティ・バランス・ファンドVA2	52,816	90,000	479,607	549,089
マネー (A)	マネー・オープン	554,839	560,000	318,962	321,740

※単位未満切捨て

●保有契約高(2014年度末)

(単位：件、百万円)

項目	件数	金額
新変額個人年金保険 グッドステージ	9,061	91,477

※単位未満切捨て

●特別勘定の内容

特別勘定の名称	銘柄	運用会社	資産運用関係費用(年率)*1
日本株式 (A)	フィデリティ・日本成長株・ファンドVA2	フィデリティ投信	1.3284% (税込) 程度
日本株式 (B)	ダイワ・バリュー株・オープンVA (底力VA)	大和投資信託	1.2852% (税込) 程度
日本株式 (C)	ドイツ・ジャパン ファンドVA	ドイツ・アセット・マネジメント	1.3068% (税込) 程度
日本株式 (D)	ダイワ・ジャパン・オープンVA (D.J.オープンVA)	大和投資信託	1.2852% (税込) 程度
世界株式 (A)	大和住銀/T. ロウ・プライス外国株式ファンドVA	大和住銀投信投資顧問 投資顧問:T.ロウ・プライス・ インターナショナル・リミテッド	1.458% (税込) 程度
世界債券 (A)	ブラックロック・ワールド・ボンド・ファンドVA	ブラックロック・ジャパン	1.0584% (税込) 程度
世界バランス (A)	フィデリティ・バランス・ファンドVA2	フィデリティ投信	1.3284% (税込) 程度
マネー (A)	マネー・オープン他	大和投資信託	各月ごとに決定*2

*1 資産運用関係費用は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。信託報酬の他、監査報酬、信託事務の諸費用、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金等がかかりますが、費用の発生前に金額や計算方法を確定することが困難なため表示することができません。

また、これらの費用は投資信託の純資産総額より差し引かれます。したがって、ご契約者はこれらの費用を間接的に負担することになります。なお、資産運用関係費用は、運用手法の変更等により将来変更される可能性があります。

*2 各月の前月の最終5営業日における無担保コール翌日物レートの平均値に0.54 (税込) を乗じて得た率とします。ただし、当該率が年0.972% (税込) を超える場合には、年0.972% (税込) の率とします。

特別勘定について

基本情報

【特別勘定の設定日】2001年11月1日
【資産分類】日本株式
【運用方針】
日本の株式の中で、将来高い成長が期待できる銘柄を厳選して分散投資を行い、中長期的な値上がり益の獲得を目指します。
【投資対象となる投資信託】
フィデリティ・日本成長株・ファンドVA2

特別勘定 純資産総額の内訳

(単位: 百万円)

資産等の種類	金額	構成比
現預金	826	1.2%
有価証券等		
フィデリティ・日本成長株・ ファンドVA2	66,652	98.5%
その他	205	0.3%
資産合計	67,684	100.0%
負債合計	—	—
純資産総額	67,684	100.0%

■ユニットプライスの推移



※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

投資対象となる投資信託について

フィデリティ・日本成長株・ファンドVA2の基本情報

【運用会社】フィデリティ投信
【運用対象】日本株式
【ベンチマーク】TOPIX（配当金込）
【投資の基本姿勢】
①個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行います。
●一般的に成長企業は、市場における高い競争力がありますので、市場占有率や価格競争力等において優位な状態にあります。
●高い競争力を戦略的に活用し、経営効率を高め、株主利益の拡

大に努めている企業に注目します。
●成長性については、利益または収益で計られる場合が多く、キャッシュフローが潤沢であることも注目点としてあげられます。
②個別企業分析にあたっては、フィデリティ・グループの日本および世界主要金融拠点のアナリストによる企業調査結果を活かし、ポートフォリオ・マネジャーによる「ボトム・アップ・アプローチ」を重視した運用を行います。
③ポートフォリオ構築にあたっては、分散投資を基本としリスク分散を図ります。

運用状況

■市場別構成比 (2015.3末現在)

市場	構成比
東証1部	96.2%
東証2部	0.7%
ジャスダック	1.0%
その他市場	0.6%
現金・その他*	1.5%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合
*「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド」を含む場合があります。

■上位5業種構成比 (2015.3末現在)

業種	構成比
1 電気機器	20.8%
2 機械	10.3%
3 輸送用機器	9.3%
4 サービス業	5.4%
5 化学	5.3%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■組入上位10銘柄 (2015.3末現在)

銘柄名	業種	構成比
1 ミスミグループ本社	卸売業	3.7%
2 ソフトバンク	情報・通信業	3.1%
3 日立製作所	電気機器	2.7%
4 マキタ	機械	2.5%
5 日本電産	電気機器	2.3%
6 東レ	繊維製品	2.2%
7 横河電機	電気機器	2.1%
8 シマノ	輸送用機器	2.0%
9 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.0%
10 オリックス	その他金融業	1.9%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合 (銘柄数 267)

【運用会社による投資信託へのコメント】 (2015.3末現在)

当月の東京株式市場は、景気や企業業績に対する楽観的な見方が広がり、利食いの売りをこなしつつ続伸しました。
当月の日本株ですが、前月までの急騰を受けて高値警戒感が強かった上旬は、売り買いが交錯して揉み合う推移となりました。月初に史上最高値を更新した米国株が、早期利上げ実施への警戒感やドル高などによる業績悪化懸念から反落に転じたことも、日本株にとっての重石となりました。しかし中旬に入り、春闘における賃上げ交渉が各社とも順調に進んでいると報道されると、景気や企業業績の持続的な拡大につながるの見方から、日本株は再び動きつきました。さらに、株主対応に消極的な企業の代表ともいえるファナックが、前向きな姿勢に転じると伝わったことで、日本企業の変化を示す象徴的事例として好感され、相場全体の上昇に弾みがつきました。月末近くになって米国株が再び調整、また中東にて地政学的リスクが高まったこともあり、日本株も小反落を強いられましたが、高値圏にて当月を終えました。
月間の騰落率は、TOPIX（配当金込）が+2.06%、日経平均株価は+2.18%でした。

・当資料は、投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)の各特別勘定について運用状況を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。
・投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移動費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

特別勘定について

基本情報

【特別勘定の設定日】2001年11月1日

【資産分類】日本株式

【運用方針】

日本の上場株式および店頭登録株式の中から、取得時にPERおよびPBR等の指標または株価水準からみて割安と判断され、今後株価の上昇が期待される銘柄に投資します。

【投資対象となる投資信託】

ダイワ・バリュース株・オープンVA（底力VA）

■特別勘定 純資産総額の内訳

（単位：百万円）

資産等の種類	金額	構成比
現預金	125	1.5%
有価証券等		
ダイワ・バリュース株・オープンVA（底力VA）	7,931	97.5%
その他	74	0.9%
資産合計	8,131	100.0%
負債合計	—	—
純資産総額	8,131	100.0%

■ユニットプライスの推移



	ユニットプライス	前月比
2012年3月31日	86.58	—
2014年3月31日	121.35	−1.01%
4月30日	116.59	−3.92%
5月31日	121.57	4.27%
6月30日	128.41	5.63%
7月31日	131.73	2.58%
8月31日	133.21	1.13%
9月30日	137.90	3.52%
10月31日	135.28	−1.91%
11月30日	142.76	5.53%
12月31日	143.23	0.33%
2015年 1月31日	142.11	−0.78%
2月28日	150.89	6.18%
3月31日	151.88	0.66%
3ヶ月変化率		6.04%
6ヶ月変化率		10.13%
1年変化率		25.15%
3年変化率		75.41%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

投資対象となる投資信託について

ダイワ・バリュース株・オープンVA（底力VA）の基本情報

【運用会社】大和投資信託

【運用対象】日本株式

【ベンチマーク】TOPIX

【投資の基本姿勢】

①定量的分析

●割安（バリュース）銘柄の選別

PERまたはPBRが市場平均程度以下の銘柄を投資対象銘柄として選別します。

②定性的分析

●事業の再構築力、新しい事業展開

経営資源の得意分野への集中、積極的な海外展開、競争力強化のための合併・買収・提携など、スピード感のある経営判断・事業展開・事業再構築の内容を検討します。

●本業の技術力、市場展開力

本業の技術力・市場展開力により、持続的に利益を創出できるか、または一時的に減益になったとしても、次の回復局面で再度持続的に利益を創出できるかを検討します。

●株主本位の経営姿勢

ストックオプションの導入、自社株消却の実施等、株主本位の経営姿勢に転換しつつあるかを検討します。

運用状況

■資産構成比率（2015.3末現在）

資産	構成比
国内株式	94.5%
国内株式先物	2.4%
国内合計	96.9%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■上位5業種構成比（2015.3末現在）

業種	構成比
1 電気機器	13.9%
2 機械	9.3%
3 銀行業	9.1%
4 輸送用機器	8.4%
5 化学	7.9%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■組入上位10銘柄（2015.3末現在）

銘柄名	構成比
1 トヨタ自動車	5.0%
2 三菱UFJフィナンシャルG	4.0%
3 日本電信電話	2.0%
4 三菱商事	2.0%
5 ブリヂストン	1.4%
6 KDDI	1.3%
7 三井物産	1.2%
8 第一生命	1.1%
9 三井住友フィナンシャルG	1.0%
10 カシオ	1.0%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

（銘柄数 176）

【運用会社による投資信託へのコメント】（2015.3末現在）

＜株式市況＞ 3月の国内株式市場は、TOPIX（東証株価指数）で前月末比1.3%上昇しました。上旬は、2月の米国雇用統計の上振れによる利上げ早期化・加速化懸念などを受けて、株式市場は上値の重い展開となりました。しかし中旬に入ると、自動車業界などを中心に高水準のベア妥結報道が相次いだことや、主要企業の株主重視姿勢の強まりが報じられたことなどが好感され、株価は大きく上昇しました。月末にかけては、高値警戒感が強まる中、2月の鉱工業生産の下振れなどもあり、株価は幾分調整しました。

＜運用経過＞ 2015年度の業績見通しに基づく銘柄入れ替えを行いました。また、株主還元強化が期待される銘柄や、バリュエーションの割安感が強い銘柄などへの投資も行ないました。一方で、配当の権利落ち後の軟調な株価が懸念される高配当利回り銘柄や、株価上昇により割安感が薄れてきた銘柄などの売却を行ないました。このような売買や株価変動により、業種では医薬品、非鉄金属、電気機器などの比率が上昇し、パルプ・紙、情報・通信業、銀行業などの比率が低下しました。

・当資料は、投資型年金 グッドステージ（新変額個人年金保険）の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。

・投資型年金 グッドステージ（新変額個人年金保険）は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。

・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって変動するリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。

・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していること、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。

・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。

・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

特別勘定について

基本情報

【特別勘定の設定日】2001年11月1日

【資産分類】日本株式

【運用方針】

日本の株式を主要投資対象とし、ボトムアップ重視の独自の調査に基づいて分散投資を行い、長期的な値上がり益の獲得を目指します。独自のリスク分析により、ファンドのリスク水準をベンチマーク並みに抑えることを目指します。

【投資対象となる投資信託】

ドイチェ・ジャパン ファンドVA

特別勘定 純資産総額の内訳

(単位: 百万円)

資産等の種類	金額	構成比
現預金	32	5.3%
有価証券等		
ドイチェ・ジャパン ファンドVA	557	92.7%
その他	12	2.0%
資産合計	601	100.0%
負債合計	—	—
純資産総額	601	100.0%

■ユニットプライスの推移



	ユニットプライス	前月比
2012年3月31日	69.20	—
2014年3月31日	97.47	-2.51%
4月30日	93.73	-3.83%
5月31日	95.62	2.01%
6月30日	101.67	6.33%
7月31日	106.49	4.74%
8月31日	107.80	1.23%
9月30日	110.27	2.29%
10月31日	109.33	-0.85%
11月30日	113.50	3.81%
12月31日	113.39	-0.09%
2015年 1月31日	113.36	-0.03%
2月28日	117.06	3.26%
3月31日	119.84	2.38%
3ヶ月変化率		5.69%
6ヶ月変化率		8.68%
1年変化率		22.95%
3年変化率		73.18%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

投資対象となる投資信託について

ドイチェ・ジャパン ファンドVAの基本情報

【運用会社】ドイチェ・アセット・マネジメント

【運用対象】日本株式

【ベンチマーク】TOPIX

【投資の基本姿勢】

①ボトムアップ重視の調査に基づき、わが国の株式市場にアクティブに分散投資を行います。

②2～3年先の企業の将来価値を算出し、将来価値と比較した現在の株価が割安かどうかを加味し、ポートフォリオを構築します。

③様々なリスク分析を行い、管理不可能なリスクを抑え、ファンドの収益率の変動をベンチマーク以下に抑えるように努めます。

運用状況

■資産配分比率 (2015.3末現在)

資産	構成比
株式	96.4%
現預金・その他	3.6%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■上位10業種構成比 (2015.3末現在)

業種	ポートフォリオ構成比	ベンチマーク構成比
1 電気機器	15.8%	13.1%
2 小売業	11.0%	4.4%
3 食料品	8.4%	4.2%
4 輸送用機器	7.6%	11.7%
5 医薬品	7.5%	5.0%
6 化学	5.4%	6.2%
7 サービス業	5.4%	3.2%
8 銀行業	5.2%	8.9%
9 陸運業	5.2%	4.1%
10 不動産業	4.8%	3.0%

※構成比はマザーファンド株式評価総額に対する割合

■組入上位10銘柄 (2015.3末現在)

銘柄名	構成比
1 トヨタ自動車	4.8%
2 三菱UFJフィナンシャル・グループ	4.1%
3 三井不動産	3.9%
4 三越伊勢丹ホールディングス	3.1%
5 オリエンタルランド	2.8%
6 キーエンス	2.7%
7 プリヂストン	2.6%
8 大日本住友製薬	2.5%
9 キッコーマン	2.4%
10 東海旅客鉄道	2.3%

※構成比はマザーファンド株式評価総額に対する割合 (銘柄数 67)

【運用会社による投資信託へのコメント】 (2015.3末現在)

3月の日本株式市場の騰落率は日経平均で前月比+2.18%、TOPIX (配当込みベース) で+2.06%となりました。株式市場は、2月中旬以降の株価の上昇ペースが速かったことへの警戒感などから投資家の様子見姿勢が強まり、上旬は狭い範囲でもみ合う動きとなりました。中旬以降は、企業の賃上げの動きに伴う個人消費の改善への期待が高まったほか、米国の早期利上げ観測の後退を背景に米国株式市場が上昇したことを受けて、上値を試す展開となりました。しかし月末にかけては、米国で予想を下回る経済指標が発表されたことなどが嫌気され、国内株式市場はやや軟調な展開となりました。

・当資料は、投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。

・投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。

・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。

・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の買戻等に備えて一定の現預金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。

・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。

・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

● 特別勘定について

基本情報

【特別勘定の設定日】2001年11月1日

【資産分類】日本株式

【運用方針】

日本の証券取引所上場株式を主要投資対象とします。ボトムアップアプローチを基本とし、各種投資指標から判断して割高と判断される銘柄を除外して投資します。

【投資対象となる投資信託】

ダイワ・ジャパン・オープンVA（D.J.オープンVA）

■ 特別勘定 純資産総額の内訳

(単位：百万円)

資産等の種類	金額	構成比
現金	15	1.6%
有価証券等		
ダイワ・ジャパン・オープンVA（D.J.オープンVA）	974	97.8%
その他	6	0.6%
資産合計	996	100.0%
負債合計	—	—
純資産総額	996	100.0%

■ ユニットプライスの推移



※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

● 投資対象となる投資信託について

ダイワ・ジャパン・オープンVA(D.J.オープンVA)の基本情報

【運用会社】大和投資信託

【運用対象】日本株式

【ベンチマーク】TOPIX

【投資の基本姿勢】

①企業業績の動向、株価水準などからみて投資価値が高いと考えられる銘柄を選別します。

②選別した銘柄について、各種投資指標のヒストリカルデータを用い

て個別銘柄の特性を分析し、割高と考えられる銘柄を除外します。
③さらに、利益水準、資産価値、成長性等を各銘柄間について比較して割安度を判断するとともに、経済動向の分析も勘案して、総合的な観点から投資する銘柄を絞り込みます。

運用状況

■ 資産構成比率 (2015.3末現在)

資産	構成比
国内株式	98.7%
国内株式先物	—
国内合計	98.7%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■ 上位5業種構成比 (2015.3末現在)

業種	構成比
1 電気機器	21.6%
2 輸送用機器	12.0%
3 サービス業	7.9%
4 機械	6.8%
5 銀行業	5.8%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■ 組入上位10銘柄 (2015.3末現在)

銘柄名	構成比
1 トヨタ自動車	4.7%
2 三菱UFJフィナンシャルG	3.8%
3 アルプス電気	2.8%
4 富士重工業	2.5%
5 村田製作所	2.4%
6 ソニー	2.3%
7 あいホールディングス	2.2%
8 ノジマ	2.1%
9 サン電子	2.1%
10 セブテーニHDGS	2.0%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

(銘柄数 127)

【運用会社による投資信託へのコメント】 (2015.3末現在)

3月の国内株式市場は、TOPIX（東証株価指数）で前月末比1.3%上昇しました。上旬は、2月の米国雇用統計の上振れによる利上げ早期化・加速化懸念などを受けて、株式市場は上値の重い展開となりました。しかし中旬に入ると、自動車業界などを中心に高水準のベア妥結報道が相次いだことや、主要企業の株主重視姿勢の強まりが報じられたことなどが好感され、株価は大きく上昇しました。月末にかけては、高値警戒感が強まる中、2月の鉱工業生産の下振れなどもあり、株価は幾分調整しました。

ポートフォリオについては、企業業績および事業環境の動向、中長期成長性、バリュエーションなどを勘案し、銘柄選別を進めました。業種別では、先月に比べて、電気機器、精密機器等を引き上げ、建設業等を引き下げました。

運用実績については、ベンチマークであるTOPIXを上回りました。業種では、医薬品のアンダーウエートがマイナスとなりましたが、電気機器やサービス業のオーバーウエートがプラスとなり、業種配分効果はプラスでした。個別銘柄では、情報機器関連やトンネル関連はマイナスに作用しましたが、小売や金融サービス関連がプラスとなり、銘柄選択効果はおおむねニュートラルでした。

・当資料は、投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。
・投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品は資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現金金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

特別勘定について

基本情報

【特別勘定の設定日】2001年11月1日
【資産分類】外国株式
【運用方針】
日本を除く世界主要国の株式に分散投資を行い、中長期的な値上がり益の獲得を目指します。原則として為替ヘッジは行いません。
【投資対象となる投資信託】
大和住銀／T. ロウ・プライス外国株式ファンドVA

特別勘定 純資産総額の内訳（単位：百万円）

資産等の種類	金額	構成比
現金	56	1.3%
有価証券等		
大和住銀／T.ロウ・プライス 外国株式ファンドVA	4,258	97.8%
その他	37	0.9%
資産合計	4,352	100.0%
負債合計	—	—
純資産総額	4,352	100.0%

■ユニットプライスの推移



※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

投資対象となる投資信託について

大和住銀／T. ロウ・プライス外国株式ファンドVAの基本情報

【運用会社】大和住銀投信投資顧問
投資顧問：T. ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッド
【運用対象】日本を除く世界主要国の株式
【ベンチマーク】MSCIコクサイ・インデックス（円換算）
【投資の基本姿勢】
①インターナショナル株式マザーファンドを通じて、日本を除く世界主要国の株式へ分散投資を行うことにより、リスクの低減とグローバルな投資機会の獲得によるファンドの長期的な成長を目指します。
②マザーファンドの運用の指図にかかる権限を、T. ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッドへ委託します。

国別配分：各国の経済成長率、金利、為替レート、金融政策、資金需要や各市場間の企業の相対的な魅力度分析により決定します。
銘柄選択：銘柄選択については、個々の企業の経営戦略、業績予想等のファンダメンタルズ分析およびバリュエーションを考慮し、ボトムアップ・アプローチにより行います。ボトムアップ・アプローチとは、個別企業の経営陣の質、財務状況、商品力、市場に占める地位といったファンダメンタルズ（基礎的条件）を中心に調査・分析を行い投資判断を行う手法です。
リスクコントロール：
幅広く分散投資を行うことにより、リスクの低減を図ります。

運用状況

■地域別内訳（2015.3末現在）

地域別	ポートフォリオ構成比
西欧	23.8%
東欧	0.0%
中東	1.1%
アフリカ	1.0%
北米	59.4%
中米	4.2%
南米	0.7%
アジア	8.1%
オセアニア	0.0%
その他	0.0%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■業種別内訳（2015.3末現在）

セクター	構成比
エネルギー	3.5%
素材	6.3%
資本財・サービス	12.9%
一般消費財・サービス	15.1%
生活必需品	5.6%
ヘルスケア	11.7%
金融	21.5%
情報技術	20.3%
電気通信サービス	0.0%
公益事業	1.2%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■組入上位10銘柄（2015.3末現在）

銘柄	国名	業種	構成比
1 GOOGLE INC-CL C	アメリカ	情報技術	3.3%
2 JPMORGAN CHASE & CO	アメリカ	金融	3.2%
3 ACTAVIS PLC	アイルランド	ヘルスケア	3.1%
4 AMAZON.COM INC	アメリカ	一般消費財・サービス	2.8%
5 MORGAN STANLEY	アメリカ	金融	2.7%
6 AIA GROUP LTD	香港	金融	2.5%
7 DANONE	フランス	生活必需品	2.2%
8 APPLE INC	アメリカ	情報技術	2.1%
9 DANAHER CORP	アメリカ	資本財・サービス	2.1%
10 STATE STREET CORPORATION	アメリカ	金融	2.1%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合（銘柄数 77）

【運用会社による投資信託へのコメント】（2015.3末現在）
2014年度下期は、米国と欧州、および日本の各株式市場の間では、経済情勢の違いや原油安を背景にボラティリティ（価格変動性）が急上昇し、バリュエーション（相対的な価値評価）には格差が生じました。しかし、ECB（欧州中央銀行）の景気刺激策に対する期待が高まった後は、欧州に資金が還流する動きが見られ、地域毎のバリュエーションの格差は、一部の新興国市場を例外とすれば徐々に縮小してきていると当ファンドでは見えています。このため、妙味ある投資機会を見出すことが以前より困難になってきているものと考えられます。このような環境下、当ファンドはM&Aによる業界再編が進んでいる業界に注目し、今後M&A活動が活発になる中で買収対象となり得る銘柄が出てくることに期待しております。また当ファンドでは、企業のファンダメンタルズ（基礎的条件）が良好な銘柄に引き続き注目していきます。今後、FRB（米連邦準備制度理事会）による金融政策の正常化が想定される中、当ファンドのしっかりした調査の基盤と経験を集約することで、企業独自の成長シナリオをいち早く見出すことに努め、より良いパフォーマンスを目指すことに注力していく方針です。

・当資料は、投資型年金 グッドステージ（新築額個人年金保険）の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。
・投資型年金 グッドステージ（新築額個人年金保険）は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって変動するリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果は直接ご契約者に帰属することになります。
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかにも保険契約の買入れ等に備えて一定の現預金を保有していること、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報と東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

世界債券（A）

（2015年3月末現在）

特別勘定について

基本情報

【特別勘定の設定日】2001年11月1日

【資産分類】世界債券

【運用方針】

日本を含む世界主要国の国債等（国債、政府機関債、国際機関債）を中心に公社債に投資を行い、ベンチマークを上回る投資成果を目指します。投資する公社債は、取得時において投資適格または同等の信用力を有するものとし、原則として為替ヘッジは行いません。

【投資対象となる投資信託】

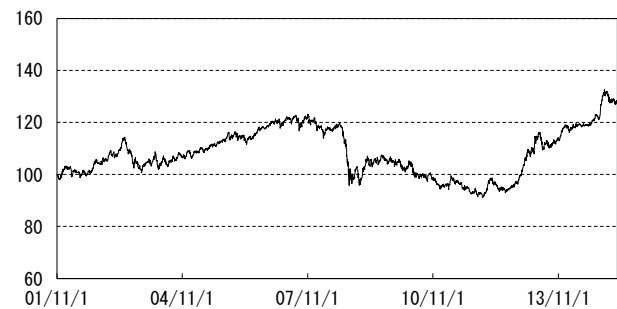
ブラックロック・ワールド・ボンド・ファンドVA

特別勘定 純資産総額の内訳

（単位：百万円）

資産等の種類	金額	構成比
現預金	119	1.9%
有価証券等		
ブラックロック・ワールド・ボンド・ファンドVA	6,251	98.1%
その他	—	—
資産合計	6,370	100.0%
負債合計	—	—
純資産総額	6,370	100.0%

■ユニットプライスの推移



（円／ドルの為替レートは、8ページに掲載しています）

ユニットプライス	前月比
2012年3月31日	97.89
2014年3月31日	118.91
4月30日	119.26
5月31日	118.68
6月30日	118.95
7月31日	119.65
8月31日	120.79
9月30日	123.02
10月31日	123.03
11月30日	130.79
12月31日	132.05
2015年 1月31日	128.54
2月28日	128.71
3月31日	127.91
3ヶ月変化率	－3.13%
6ヶ月変化率	3.98%
1年変化率	7.57%
3年変化率	30.67%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

投資対象となる投資信託について

ブラックロック・ワールド・ボンド・ファンドVAの基本情報

【運用会社】ブラックロック・ジャパン

【運用対象】日本を含む世界主要国の信用力の高い公社債

【ベンチマーク】シティ世界国債インデックス（円ベース）

【投資の基本姿勢】

①金利・為替についての相場観に過度に依存しない投資機会、計算

可能な相対価値（「レラティブ・バリュー」）に基づく投資機会を発見し、多種多様な投資機会を積み重ねていくことにより、安定した超過収益をあげることが可能であると考え、信託財産の成長を図ることを目標として積極的な運用を行います。

②外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

運用状況

■通貨別構成比率（2015.3末現在）

	ベンチマーク ウェイト	ポートフォリオ 債券ウェイト	通貨ウェイト
米国・ドル	32.7%	24.7%	32.2%
カナダ・ドル	1.7%	3.1%	1.9%
メキシコ・ペソ	0.8%	1.7%	1.0%
南アフリカ・ランド	0.4%	1.1%	0.5%
日本・円	22.5%	19.7%	21.4%
オーストラリア・ドル	1.4%	6.3%	1.5%
シンガポール・ドル	0.3%	—	0.8%
マレーシア・リンギット	0.4%	—	—
ユーロ	31.6%	21.5%	31.8%
英国・ポンド	6.4%	6.2%	6.5%
デンマーク・クローネ	0.6%	0.7%	0.7%
スウェーデン・クローナ	0.4%	1.1%	0.5%
スイス・フラン	0.2%	0.4%	0.4%

	ベンチマーク ウェイト	ポートフォリオ 債券ウェイト	通貨ウェイト
ポーランド・ズロチ	0.5%	0.3%	0.5%
ノルウェー・クローネ	0.2%	1.0%	0.3%
国際機関		0.8%	—
キャッシュ等		11.6%	—
合計	100.0%	100.0%	100.0%

※ベンチマークのユーロ部分は、ユーロ加盟国のウェイトの合計です。

※ベンチマークはシティ世界国債インデックス2015年4月の構成比率

※為替のポートフォリオの「日本・円」は、キャッシュ等を含みます。

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■組入上位10銘柄（2015.3末現在）

銘柄名	利率	償還年月日	構成比
1 日本国債	1.000	2021/9/20	8.5%
2 日本国債	1.800	2031/9/20	5.1%
3 日本国債	2.100	2027/12/20	3.7%
4 日本国債	1.100	2020/6/20	3.3%
5 フランス国債	4.500	2041/4/25	2.2%
6 フランス国債	1.750	2023/5/25	2.2%
7 日本国債	—	2021/3/20	2.0%
8 イタリア国債	4.750	2044/9/1	1.7%
9 スペイン国債	3.250	2016/4/30	1.7%
10 フランス国債	4.250	2023/10/25	1.6%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合（銘柄数 152）

修正デュレーション＝平均7.06年（ベンチマーク＝同7.36年）

・当資料は、投資型年金 グッドステージ（新変額個人年金保険）の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。

・投資型年金 グッドステージ（新変額個人年金保険）は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。

・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって変動するリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うこととなります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。

・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほか、保険契約の買戻等に備えて一定の現預金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。

・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。

・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

特別勘定について

基本情報

【特別勘定の設定日】2001年11月1日
【資産分類】 バランス
【運用方針】
日本を含む世界各国の株式、債券、短期金融商品に分散投資を行います。原則として為替ヘッジは行いません。
【投資対象となる投資信託】
フィデリティ・バランス・ファンドVA2

特別勘定 純資産総額の内訳

(単位: 百万円)

資産等の種類	金額	構成比
現金	2	0.1%
有価証券等		
フィデリティ・バランス・ ファンドVA2	2,368	97.9%
その他	48	2.0%
資産合計	2,419	100.0%
負債合計	—	—
純資産総額	2,419	100.0%

■ ユニットプライスの推移



(円/ドルの為替レートは、8ページに掲載しています)

ユニットプライス	前月比
2012年3月31日	88.03
2014年3月31日	113.89
4月30日	113.19
5月31日	114.30
6月30日	116.04
7月31日	117.30
8月31日	117.37
9月30日	120.53
10月31日	120.34
11月30日	128.41
12月31日	129.17
2015年 1月31日	126.73
2月28日	131.05
3月31日	131.97
3ヶ月変化率	2.17%
6ヶ月変化率	9.49%
1年変化率	15.87%
3年変化率	49.91%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。
※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

投資対象となる投資信託について

フィデリティ・バランス・ファンドVA2の基本情報

【運用会社】 フィデリティ投信
【運用対象】 日本を含む世界各国の株式、債券、短期金融商品
【ベンチマーク】 複合インデックス (円ベース)
● TOPIX (配当金込) (25%)
● MSCIワールド・インデックス (除く日本/税引前配当金込) (25%)
● シティ日本国債インデックス (15%)
● シティ世界国債インデックス (除く日本) (10%)
● シティ世界マネーマーケット・インデックス1ヶ月ユーロ預金インデックス (円セクター) (15%)
● シティ米短期国債インデックス1ヶ月米国債インデックス (10%)

【投資の基本姿勢】

- ① 資産配分については、複合ベンチマークの配分を中心とした緩やかな調整を行います。
- ② 株式部分については、個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行います。
- ③ 株式以外の部分については、安定性を重視した運用を行います。
- ④ 個別企業分析にあたっては、フィデリティ・グループの日本および世界主要金融拠点のアナリストによる企業調査結果を活かし、現地ポートフォリオ・マネージャーによる「ボトム・アップ・アプローチ」を重視した運用を行います。
- ⑤ 原則として外貨建資産の為替ヘッジは行いません。

運用状況

■ 資産別組入状況 (2015.3末現在)

	構成比
日本株式	27.7%
外国株式	28.8%
北米	17.4%
欧州	9.4%
その他	2.0%
円建債券	24.3%
外貨建債券 (含 債券型投信3.0%)	9.5%
円建短期金融商品*	—
外貨建短期金融商品*	7.3%
現金等	2.3%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合
※短期金融商品には残存期間1年未満の債券を含みます。
株式には投資証券、リート、ワラントを含みます。

■ 株式組入上位5銘柄 (2015.3末現在)

銘柄名	国名	業種	構成比
1 東レ	日本	繊維製品	1.2%
2 本田技研工業	日本	輸送用機器	1.2%
3 日立製作所	日本	電気機器	1.1%
4 ブリヂストン	日本	ゴム製品	1.0%
5 ソフトバンク	日本	情報・通信業	1.0%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■ 債券組入上位5銘柄 (2015.3末現在)

銘柄名	国名	構成比
1 第345回 2年国債 0.1% 2016/10/15	日本	10.0%
2 第312回 10年国債 1.2% 2020/12/20	日本	9.9%
3 フィデリティ・ファンズ・USドル・ボンド・ファンド	ルクセンブルグ	3.0%
4 第140回 20年国債 1.7% 2032/09/20	日本	2.2%
5 イタリア国債 2.15% 2021/12/15	イタリア	1.8%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■ 通貨別組入状況 (2015.3末現在)

通貨	構成比
日本円	52.4%
米ドル	32.0%
ユーロ	8.8%
英ポンド	2.4%
その他	4.3%

※構成比はマザーファンド純資産総額に対する割合

■ 銘柄数 355

(2015.3末現在)

・当資料は、投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。
・投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。
・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うことになります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。
・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の買入れ等に備えて一定の現預金を保有していることと、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。
・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。
・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

特別勘定について

基本情報

【特別勘定の設定日】2001年11月1日

【資産分類】短期金融商品

【運用方針】

円建ての短期金融商品を中心に投資します。流動性に十分配慮し、リスクを抑えた安定的な運用を行います。

【投資対象となる投資信託】

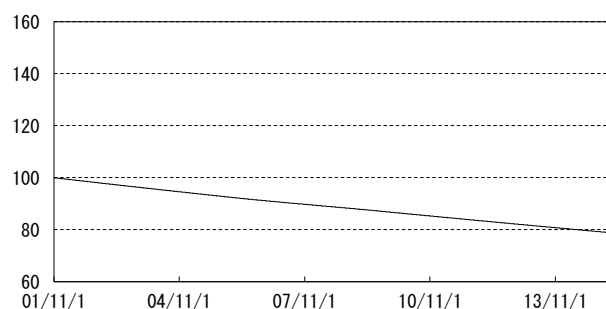
マネー・オープン 他

特別勘定 純資産総額の内訳

(単位：百万円)

資産等の種類	金額	構成比
現預金	265	23.1%
有価証券等		
マネー・オープン	885	76.9%
その他	—	—
資産合計	1,150	100.0%
負債合計	—	—
純資産総額	1,150	100.0%

■ユニットプライスの推移



	ユニットプライス	前月比
2012年3月31日	83.15	—
2014年3月31日	80.18	−0.16%
4月30日	80.06	−0.15%
5月31日	79.93	−0.16%
6月30日	79.81	−0.15%
7月31日	79.69	−0.16%
8月31日	79.56	−0.16%
9月30日	79.44	−0.15%
10月31日	79.32	−0.16%
11月30日	79.20	−0.15%
12月31日	79.07	−0.16%
2015年 1月31日	78.95	−0.16%
2月28日	78.83	−0.14%
3月31日	78.71	−0.16%
3ヶ月変化率		−0.46%
6ヶ月変化率		−0.92%
1年変化率		−1.83%
3年変化率		−5.33%

※ユニットプライスは、小数点第3位以下を切り捨てて表示しています。

※前月比・変化率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

投資対象となる投資信託について

マネー・オープン 他の基本情報

【運用会社】大和投資信託

【運用対象】円建て短期金融商品

【ベンチマーク】特に定めなし

【投資の基本姿勢】

主にマネー・オープン等の短期金融商品に投資を行い、安定的な収益の確保をはかる。

・当資料は、投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)の各特別勘定について運用状況等を開示するためのものであり、生命保険契約の募集を目的としたものではありません。

・投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)は特別勘定で運用を行う商品です。また特別勘定は投資信託を主な投資対象としていますが、当商品は投資信託とは異なる商品です。また、当資料に掲載されている投資信託の開示情報はあくまでも参考情報であり、ご契約者が直接投資信託を保有するものではありません。

・特別勘定の資産運用は経済、企業収益、金利、金融市場の環境によって値動きするリスク資産を投資対象としているため、高い収益性が期待できる反面、株価の下落、為替変動等によっては投資リスクを負うこととなります。当商品では資産運用の結果が直接、死亡保険金額、解約払戻金額、将来の年金額等に反映されることから、資産運用の成果・リスクが直接ご契約者に帰属することになります。

・特別勘定のユニットプライスの動きは、特別勘定の主な投資対象となる投資信託の基準価額の動きとは異なります。これは、特別勘定が投資信託のほかに保険契約の異動等に備えて一定の現預金を保有していること、ユニットプライスの計算にあたり保険関係費用等を控除しているからです。また、ご契約者の積立金の増減とユニットプライスの動きは必ずしも一致するものではありません。これは、ご契約者の積立金を算出するためにはユニットプライスの増減に加えて、積立金移転費用、貸付利息等を控除する場合があるからです。

・当資料に掲載されている投資信託の開示情報は各運用会社により開示された情報を東京海上日動あんしん生命保険株式会社が提供するものであり、開示内容について東京海上日動あんしん生命保険株式会社は一切責任を負いません。

・当資料に掲載されている運用状況、財務諸表、投資信託の現況等は過去の実績を表したものであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

投資リスクについて

この商品は、将来受け取る年金額、解約払戻金額、死亡保険金額等が特別勘定の運用実績に基づいて増減するしくみの生命保険です。特別勘定は投資信託を通じて国内外の株式・債券等に投資されますので、この商品には価格変動リスク・為替変動リスク・信用リスク・金利変動リスク等の投資リスクがあります。そのため、株価や債券価格の下落・為替の変動等により、年金、解約払戻金等のお受け取り金額が、お支払いいただいた保険料の合計額を下回る可能性があります。

ご負担いただく費用について

■運用期間中の費用（すべてのご契約者にご負担いただく費用）

項 目	費 用
保険関係費用(保険契約管理費)	特別勘定の純資産総額に対して年率1.85%
資産運用関係費用* (資産運用管理費)	特別勘定の投資対象となる投資信託の純資産総額に対して上限年率1.458%（税込）程度 各特別勘定により異なります。詳しくは、P.3「特別勘定の内容」をご覧ください。

■お取引の内容による費用（特定の取引のご契約者にご負担いただく費用）

項 目	適 用	費 用
積立金移転費用	1 保険年度 12 回を超える積立金の移転の際	1 保険年度に 12 回までの移転…無料 1 保険年度に 12 回を超える移転…1 回につき 1,000 円
契約者貸付利息	契約者貸付を受けたとき	貸付金額に対して年率 1.85%
解約控除	解約するとき	積立金額に対して 7%～ 1%（経過年数に応じて）
	減額するとき	減額に相当する積立金額に対して 7%～ 1%（経過年数に応じて）

■年金支払期間中の費用（将来、以下の内容が変更になることがあります）

- 保証期間付終身年金、確定年金の場合

項 目	適 用	費 用
保険関係費用(年金管理費)	当保険の維持管理等に必要な費用	年金額に対して 1.0% 以内 (毎年の年金支払日に責任準備金から控除します)

- 特別勘定年金の場合

項 目	適 用	費 用
保険関係費用 (年金管理費)	特別勘定年金の維持管理等に必要な費用(基本保険金額を最低保証するための費用および災害死亡保険金などの費用を除きます)	特別勘定の純資産総額に対して年率 1.17%
資産運用関係費用* (資産運用管理費)	保険関係費用(年金管理費)以外で、特別勘定の運用に係わる費用として支払われます。	特別勘定の投資対象となる投資信託の純資産総額に対して上限年率 1.458%（税込）程度 各特別勘定により異なります。詳しくは、P.3「特別勘定の内容」をご覧ください。

■ご負担いただく費用の合計額について

この商品にかかる費用の合計額は、上記「保険関係費用」「資産運用関係費用」の合計額となります（ただし、一定期間内の解約については「解約控除」、積立金の移転が1保険年度12回を超えた場合には「積立金移転費用」等が別途かかりますのでご注意ください）。

* 資産運用関係費用は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。信託報酬の他、監査報酬、信託事務の諸費用、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金等がかかりますが、費用の発生前に金額や計算方法を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は投資信託の純資産総額より差し引かれます。したがって、ご契約者はこれらの費用を間接的に負担することになります。なお、資産運用関係費用は、運用手法の変更等により将来変更される可能性があります。

ご注意いただきたい事項

- 「投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)」は東京海上日動あんしん生命保険株式会社を引受保険会社とする生命保険(変額個人年金保険)です。
- 「投資型年金 グッドステージ(新変額個人年金保険)」には投資リスクがあり、投資リスクはご契約者に帰属します。場合によっては将来お受け取りになる金額が、払込保険料総額を下回る可能性があります。

【募集代理店】 大和証券 Daiwa Securities	【引受保険会社】 東京海上日動あんしん生命保険株式会社 ホームページ http://www.tmn-anshin.co.jp ご契約内容・各種手続きに関するお問い合わせ  0120-155-730 受付時間：月～金／9：00～17:00 (祝日および12月31日～1月3日は休業とさせていただきます。)
--	---